

比亞迪 (Byd)(01211)

【セクター】 自動車

【市場】 香港

【企業概要】

中国最大の新能源車（NEV）メーカー。1995年に携帯用電池メーカーから事業をスタートし、2003年に自動車産業へ参入。BEV（純電気自動車）やPHEV（プラグインハイブリッド車）のNEV分野でパイオニア的な存在です。車載用半導体も手掛けており、IGBT（絶縁ゲートバイポーラトランジスタ）では中国最大手です。部門別売上高構成比（22.12期）は自動車・関連製品が76.6%、携帯電話の部品・組み立てが23.3%、その他が0.1%です。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万人民元、EPS、1株配当、BPSは人民元、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

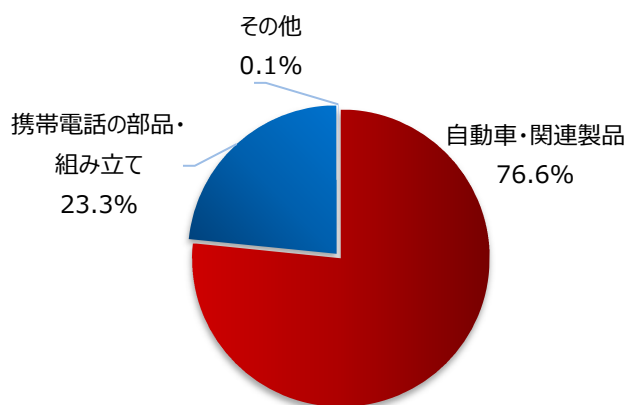
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	211,300	3,045	1.06	0.11	32.7	4.0	35.2
22.12期	424,061	16,622	5.71	1.14	38.2	16.1	24.6
23.12期（予）	626,294	29,045	10.00	1.61	47.4	22.8	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

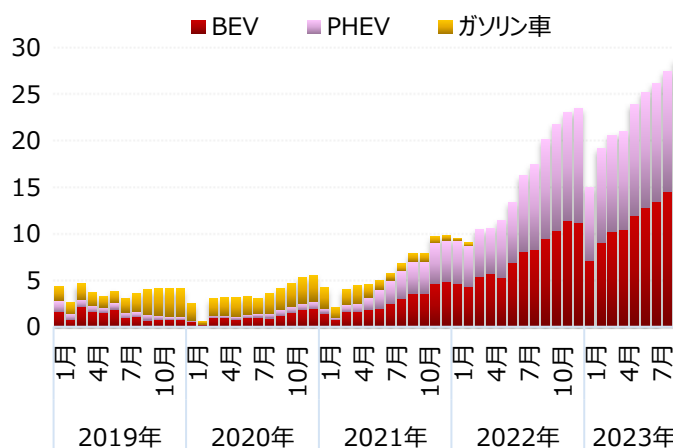
【主要指標】

部門別売上高構成比（22.12期）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

乗用車販売台数の推移（万台、月次ベース）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

BEVとPHEVを含むNEVの販売台数は10年連続で中国首位。近年は車載用半導体や車載電池の外販も強化しています。EV生産に加え、車載用半導体や車載電池などコア技術も併せ持つことは強みといえます。事業戦略は、1) 高級EVブランドの強化、2) PHEVでは独自の「DM」（デュアルモード）技術による動力性能・経済性を追求した車種の強化、3) 欧州でのEV拡販、4) 半導体事業のスピノフ上場/資金調達によるパワー半導体の外販の強化、5) 電池事業子会社の「弗迪電池」による新興EVメーカー市場の開拓などです。上記の1) -5) はいずれもEV化という時代の流れに沿った戦略で、実現されれば一段の事業拡大をもたらすでしょう。各戦略の進捗状況が今後の注目ポイントとなりそうです。

【見通し・注目点】

7-9月期の純利益は10月中旬の暫定値通り、前年同期の2.3倍となり、四半期ベースで過去最高益を記録しました。新エネルギー車の販売拡大やコスト管理を支えに、粗利益率は4-6月期の18.7%から22.1%に、営業利益率は同5.0%から7.5%に改善しました。なお、パークシャー・ハサウェイが10/25に同社株を売却（保有比率は8.05%から7.98%に低下）したことが明らかになりました。短期的には需給要因として警戒されそうですが、好業績は株価の下支え要因となりそうです。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。